

～合言葉は「モッタナイ」 JICA 草の根技術協力を 受け、環境教育の人材育成プロジェクトをスタート～

みなさん、「ケニアの街並み」といわれたらどのような想像をしますか？カラフルな建物や果物・野菜売り・・といった光景でしょうか。しかし近年、あるものが目立つようになりまし

た。それは、道ばたに放置された『ゴミ』です。一昔前は、果物の皮など、自然のものばかりだったのが、近年は急速な経済発展に伴い、ビニール袋やペットボトルなどプラスチック系ゴミが急増。ビニール袋は分解されるのに200年以上もかかるので、一度捨てられたゴミは土に戻ることなくその場に残ってしまいます。

～なぜ街にゴミが放置されている？政府の対策は？

この様なゴミ問題は ACEF があるエンブ郡に限らず、他の地区でも同様で、ゴミ収集車による廃棄物収集作業は行われていますが、そのほとんどが大通りのある中心地だけで、住居密集地の道の狭い地区では収集車のルートが制限され、収集が行われないまま放置されているのが現状です。収集能力がゴミ排出量に追いついていないことも要因ですが、道ばたがゴミだらけになるもう一つの大きな要因は、ケニアでは「ポイ捨てが当たり前」という昔からの意識が大きいのです。また分別もほぼ行われておらず(お金になる鉄くず等は浮浪者などが収集・販売)「ゴミを袋に入れて決まった場所に捨てる」という活動をしているのはごく一部の住民のみで、道ばたに広がるゴミは、ハエやネズミの繁殖を促し、悪臭を放ち、深刻な衛生問題です。



【エンブ市街地青果市場横のゴミ集積所】

こうした問題を受け ACEF では、国際協力機構(JICA)の「草の根技術協力事業」の支援で、2016年5月から、「環境教育人材育成事業」を開始しました。市街地住民の中でも積極的に地域貢献活動を行っている60名を対象に、環境教育セミナーを実施し、実際に環境教育活動を実践した後、地域の「環境活動の先生」になってもらう事業がスタートしました。

～キレイな町をめざし、まずは現状把握から！ ゴミ調査隊が活動中！！～



【地域の地図とにらめっこしながら、データ作成】

エンブ郡政府が指定した正規の回収所ではないところにも勝手にゴミ集積所が作られている模様。近くに集積所があるので、そこにポイ。これは一種の不法投棄！そういった実状に新しい風を吹かそうというのが今回の調査目的です。日本にいと当たり前のように目にする「地図」。これがケニアではとても貴重で、観光用地図はあっても、住宅地図はなかなか手に入りません。そこで、エンブ水道公社の全面的な協力を受け、独自に開発された地図データの使用許可を得て、ゴミ実態地図を作っています。ACEF プロジェクトチームが総出で、地図を片手に町を歩いて現場を確認しながら、不法投棄箇所を見つけては1つ1つ地図に印をつけ、証拠写真をパチリ！出来上がった地図に記された不法投棄箇所の多さ！この地図データを知事に見せたとき、驚きを隠せない様子でした。このデータが与えたインパクトはなかなか大きく、郡政府の意識、取り組みがどう変わっていくか・・今後も期待されます。

～枯れた大地に緑を～

今年もやっています、環境セミナー

ACEFでは、独立行政法人 環境再生保全機構の「地球環境基金」の助成金を得て、2016年4月から2017年3月まで、環境教育と植林に関するプロジェクトを行っています。

このプロジェクトでは：

- 1) 環境意識向上【セミナーを通じた環境教育実施】と、
- 2) 植林活動【植林を通して森林保全を図る】の2点にフォーカスして活動を行っています。

その内容の1つである環境セミナーを、6/16～18の2泊3日で、ケニアのイシオロという地域で実施しました。小学校3校とコミュニティグループ3つで、計500名の参加が得られました。セミナーでは、地球温暖化が引き起こす異常気象による干ばつや家畜被害などの環境問題や”モッタイナイ”の再認識を図り、日ごろから行える資源の有効活用法などを取り上げました。活動の中で必ず参加者に覚えてもらう歌があります。『モッタイナイのうた』です。

♪モッタイナイの合言葉 たくさんの人に伝えよう
物を大切にしないのは モッタイナイ モッタイナイ
時間をムダにするのは モッタイナイ モッタイナイ
自分だけにつかう心 モッタイナイ モッタイナイ ♪
(作詞作曲 アセフ支援者有志)



【モッタイナイソング スワヒリ語 Ver、ケニアで拡散中！】

～ボランティア紹介～

今回はケニアで ACEF ボランティアスタッフとして活動しているメンバーを数人ご紹介いたします！皆さんどんな目標をもって、どんなことを感じながらケニアでの生活を送っているのでしょうか！？インタビューしてみました！

●Rさん(男性・22歳) 滞在8か月

Q.ACEFに来る前は何をしていましたか？

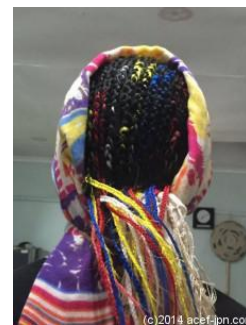
⇒A.ヒッチハイクで奈良県から愛知、東京、太平洋側の東北各県を通り、北海道まで旅をしました。人の優しさに触れ、たくさんの出会いがあった最高の旅でした。

Q.ACEFで今やっていること、今後やりたいことは？

⇒A.ケニアを旅していました。
Q.ケニアのどんなところが好きですか？

⇒A.とにかく子どもがかわいいです。

【写真注釈:カラフルなつけ毛を編み込んでいる後ろ頭(併せてバンダナも巻いている)】



●Sさん(女性・22歳) 滞在3か月

Q.ACEFに来る前は何をしていましたか？

⇒A.現在大学生で、グローバル・コミュニケーションが専攻です。言語をツールに世界で活躍できる対話力を身につけるべく、日々学んでいます。

Q.ACEFで今やっていること、今後やりたいことは？

⇒A.現地の学生に空手を教えています。今後は学校を回ってエイズ啓蒙活動をしたいと思っています。

Q.ケニアのどんなところが好きですか？

⇒A.青い空、緑の木、赤い土。人々が「足るを知って」いるところ、いい意味で人目をあまり気にしないところです。



この他にも興味深い「珍回答？」が続々！インタビュー全文は ACEF ホームページでご覧ください！

で検索

振込先： 郵便局から(窓口・ATM・ゆうちょダイレクト)：

ゆうちょ銀行 振替口座 番号:00930-8-66355 アフリカ児童教育基金

*領収書が不要な方は、通信欄に「領収書不要」とご記入ください。

銀行から：ゆうちょ銀行 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 当座 0066355 アフリカ児童教育基金

*銀行からの振込みの場合、氏名と金額しか確認できません。

領収書が必要な方は、住所、氏名を電話かメールでお知らせください。

発行人：〒632-0063 奈良県天理市西長柄町 265-4 (特非)アフリカ児童教育基金の会 ACEF 代表 小椋 とも代

TEL&FAX: 0743-25-6935 電子メール: headquarters@acef-jpn.com

現地事務所 Africa Children Education Fund(ACEF) P.O.Box 1365-60100 Embu, Kenya

